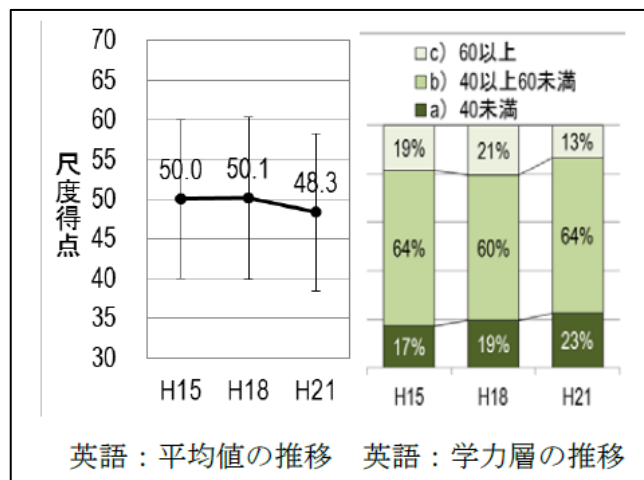


中学校「読む力を伸ばす英文教材集」の活用について

京都府総合教育センター

1 はじめに

京都府総合教育センターが実施した中学校学力診断テストの経年比較（平成15年、18年、21年実施分を尺度得点に統計処理をして比較）から、右図のように、英語では「平均値の低下」や「中低位層の増加」が分かりました。様々な要因が考えられますが、中低位層では、英語への「苦手意識」や「自学習習慣の未確立」が大きな要因であると考え、そこに切り込む指導の一助にと本教材を作成しました。現場の先生方の創意工夫を加えていただき、子どもたちの苦手意識の払拭や自学習習慣の確立に活用していただければと考えています。



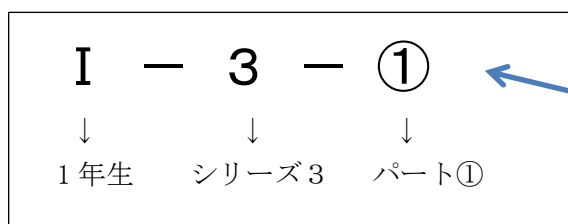
2 基本コンセプトについて

- ① 読み物教材
- ② 中低位層に焦点を当てた教材
- ③ 自学できる教材

本教材は、3つの基本コンセプトのもとに作成しました。①に関しては、特定の文法事項等の復習のために使うのではなく、読むことを通して「読む力」を伸ばすことをねらいとしています。読むことに十分習熟することが、書くことといった表現力育成の土台作りにもなると考えました。②に関して

は、英語の苦手な生徒が取り組んでみようと思える適切な量と難易度、親しみを感じる題材になるように配慮し、「自分の力で読めた」という実感が持てることをねらいとしています。③に関しては、自分の力で読めたという達成感が、学習への意欲を喚起し「自学の習慣付け」をするとともに、読むことの認知メカニズムに沿った読み方をさせることで、「英語の学び方や文章の読み方」を身につけることをねらいとしています。

3 全体の構成について



通し番号	教材番号	題材名(シリーズ)	副題(パート)	文章の種類
1	1-1-①	友だちとの出会い	出合いの場面の対話文を読む	対話
2	1-2-①	学校周辺の案内	案内の場面、友だちを紹介の場面の対話文を読む	対話
3	1-3-①	2人の留学生	自己紹介の対話文を読む	対話
4	1-3-②		質問している場面の対話文を読む(1)	対話
5	1-3-③		質問している場面の対話文を読む(2)	対話
6	1-4-①	新しい友だちとともに	それが切れたずる対話文を読む	対話
7	1-4-②		色々な数値をたずねる対話文を読む	対話
8	1-4-③		宿をするかたずねる対話文を読む	対話
9	1-5-①	アムとコリ	注文の場面の対話文を読む	対話
10	1-5-②		数をたずねる対話文を読む	対話

表紙裏面の教材一覧にあるように、本教材は「100枚」の読み物教材から成ります。1年生は11のシリーズと総合問題、2年生は7つのシリーズと総合問題、3年生は6つのシリーズと総合問題から成ります。各シリーズには「題材名」を付け、連続した話題・題材からなる3～4のパートでシリーズを構成し、普段使っている教科書との類似性を持たせています。各パートには、新出文法事項との関連を持たせていますが、総合問題については「まとまった文章」を読み取ることに特化しています。

文法事項等の並びは、検定教科書 New Horizon のシラバスをもとにしていますが、Sunshine や One World にも対応できるよう、教材一覧の右端に、該当教科書で該当文法事項を学ぶプログラム（レッ

スン) を表示し、どのタイミングでこの教材が使えるかを示しています。例えば、I-6-①②③「ユミの好きな人・家族」は、Sunshine ならプログラム6 終了後に、One World ならレッスン5 終了後に使用していただけます。語彙等については、各教材ステップ2の「次の単語・語句・文の意味を確認しよう」に未習語句等を示し、どの教科書にも対応させています。また、シリーズの題材・話題に応じて、各教科書で使われる単語以外にも幅広く紹介することで、英単語に自然と慣れ、語彙を増やしていくことも目指しています。

4 各教材の構成について —読むことの認知メカニズムに沿ったステップ構成—

ステップ1	: 背景知識の活性化
ステップ2	: 未習語句の意味理解
ステップ3	: 英語 (CD) を聞きながらの黙読による「概要・要点理解」
ステップ4	: リーディングポイントに沿った「詳細理解」
ステップ5	: 「音読練習」による英語情報の内在化と「英語で内容を考える問題」
ステップ6	: 内在化した英語情報を使った「再生活動や表現活動」

「読むこと」は、「目の前の文章 (文字) を解読する情報処理 (Bottom-Up 処理)」と「各自が持っている背景知識やすでに解読した部分から予想する情報処理 (Top-Down 処理)」の相互作用によって読み取りが進むと考えられています。望ましい読み方を身に付けさせるために、まずは Top-Down 処理を優先して、概要・要点理解を行わせるようにしています。特に、英語の苦手な生徒は、個々の単語や文の意味に固執して文章全体に目が向かない傾向や、少しでも分からない部分があると読むことをあきらめる傾向があります。そこで、細かいことにとらわれず、まず「全体として何が述べられているか」を理解させることを優先し、その後に、文章の内容理解に必要なところだけを読み取るように構成してあります。この構成は、外国語を読むことに関する最近の研究成果を活かしたものです。

また、音読練習により英語情報をしっかりと内在化させることで、文字を解読し英語の文章を読み取る速度や精度が向上すると言われています。そして内在化した英語情報を活用し、自分の言葉で再生する活動、自分の考えを表現する活動を行うことが、学習内容の定着につながっていくと考えられます。このような認知メカニズムに沿った学習を導くことで、「英語の文章の読み方」や「英語の学習の仕方」が徐々に身につくことを目指しています。

5 教材の使用について

- (1) 正規の授業 (各校の年間指導計画に沿った指導) を 補完する教材 という位置づけであり、「課外学習課題 (放課後学習、長期休業中の補習、定期テスト前の補習等)」や「家庭学習課題 (課末課題、週末課題、個別課題等)」としての利用を想定しています。
- (2) A4サイズの各教材を、各校でB4に拡大印刷して使用することを想定しています。
- (3) 解答集については、「先生方が答え合わせを行う」「印刷配付して生徒が自ら答え合わせを行う」のいずれの利用方法も可能です。
- (4) 音声CDについては、「課外学習等においてCDプレーヤーで一斉に放送する」「複製して個別の生徒に貸し出す」「学校のホームページに掲載し、家庭でダウンロードして利用する」など、様々な使い方が可能です。
- (5) 本教材の著作権は京都府教育委員会が所有し、京都府内市町 (組合) 立中学校 (京都市立を除く。) 及び京都府立学校での教育活動において、複製利用及び編集利用をすることができます。

6 課外学習等での使用例

(1) 最初は左半分のみを見て**ステップ1**～**ステップ3**を取り組ませる。【3分】

- **ステップ1**の投げかけを読ませて話題内容を想像させる。
- **ステップ2**の未習語句の意味を確認させる。CDを使い未習語句の発音を聞かせる。
- **ステップ3**の本文を黙読させ（できる限りCDを聞きながら黙読させ）、どのような場面か、誰と誰が話しているか、話題の中心は何かといった本文の概要・要点を考えさせる。

(2) 教材全体を見て、**概要・要点に関わる質問（右上の質問）**～**ステップ4**を取り組ませる。【5分】

- **概要・要点に関わる質問**に答えさせ、この段階での理解を一度確認する。
- 概要・要点を理解したうえで、本文を再度黙読させ**ステップ4**の質問に答えさせる。
- できれば本文に下線を引かせて、どの部分から該当の情報を読み取ったかを意識させる。
- ステップ4のすべての質問に答えた段階で、理解を確認する。

(3) 内容を理解したうえで**本文の音読練習**を行い、**大まかな内容を頭に入れさせる**。【7分】

- CDの範読を聞かせる。
- CDに続いてリピートさせる。（1～2回）
- 自分の力で音読させる。（必要なら、CDの範読や未習語句の範読を再度聞かせる）
- CDの範読を流しながら、同時読みをさせる。（パラレルリーディング）

(4) 教材の右半分だけを見て**ステップ5**～**ステップ6**を取り組ませる。【5分】

- できる限り本文を見ずに、頭に入れた英文情報を思い出しながら**ステップ5**の True or False や Q&Aに取り組ませる。
- できる限り本文を見ずに、**ステップ6**の再生活動・表現活動に取り組ませる。綴りの分からない単語については、音を頼りにスペルアウトさせる指示をし、どうしてもわからない場合はステップ2の未習単語や本文を参照させる。
- ステップ5、6が終わった段階で、最終の答え合わせを行う。

※表示した時間はあくまで目安です。実態に合わせて時間設定をしてください。

7 様々な活用方法について

(1) 生徒の自学を促すための工夫を行う

- 生徒が自分のペースで学習できるように、印刷した教材を棚（100段の文書ロッカー等）に入れておき、自由に取り組めるようにする。
- 家庭でも音声面の学習ができるように、音声CDを複製し、貸し出せるようにする。
- 「教材をPDF化したもの」や「音声CD」を学校のホームページに掲載し、家庭からダウンロードできるようにする。

(2) 学校や生徒の実態に応じて教材をカスタマイズする

添付したCDには、各教材のワード版が入っています。(書式等の違いはありますが、テキストデータとしては冊子の教材と同様のものです。なお、ブロック体については標準仕様のPCに入っていないので、Comic Sans MSで代用しています。)学校や生徒の実態に合わせて、様々な方法での編集が可能です。

- **ステップ2**の「単語・語句・文の意味を確認しよう」に、必要な単語等を追加したり、 unnecessaryなものを削除する。
- **ステップ3**の「本文」を編集する。例えば、複数のパートをつなげれば、より長い本文に変えることができる。
- **ステップ4**の「詳細理解のための質問」を編集する。
- **ステップ5**の問題を編集する。例えば、True or FalseをQ&Aに変えたり、Q&AをTrue or Falseに変える。問題数を調整する。等
- **ステップ6**の「再生問題・表現問題」を編集する。中低位層の取り組みやすさを考え、ステップ6の問題数は絞っています。必要なら問題数を増やしたり、要約文を完成させる問題を追加したり、該当の文法事項等の復習に焦点を当てた問題等を追加する。

(3) 定期テスト等の「外国語理解の能力を測る問題」のボディ文として活用する

定期テスト等では、「外国語理解の能力」を測るため、「初出の文章を使った読み取り問題、聞き取り問題」が必要になります。その際、ボディ文の作成に苦勞をしている先生方も多いと思います。ワード版テキストは、生徒の実態に合ったボディ文作成のたたき台としても利用できると考えています。テストに使用したい部分を、課題学習、家庭学習課題から外していただくと、このような活用も可能です。

本教材作成に御尽力いただいた中学校「読む力育成のためのプロジェクト会議」の先生方、御協力いただいた関係諸機関に厚く御礼申し上げます。

担 当	京都府総合教育センター研修・支援部
連絡先	075-612-2952